

令和7年度 病害虫発生予察情報(美濃地域:施設野菜) 2月予報

【イチゴ】ハダニ類

現在、全体的には発生量が少ない傾向にありますが、一部のほ場では局所的な発生が認められます。今は発生が見られないか少ない場合でも、2月以降に日射量が増すとハウス内温度は急激に上がり、発生が増加する恐れがあります。下位の葉裏や株元等をよく観察し、増加する前の防除を徹底してください。

【トマト】コナジラミ類

施設内の黄色粘着板への誘殺数は平年より多く、すでに発生が確認されている施設では密度が上昇しやすい状況です。施設内をよく見回り、除草と防除を徹底して、春先の増加を抑えましょう。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(2月)

作物	病害虫名	2月(予測)	発生状況及び今後の予測	1月(発生量)	防除上の注意事項
イチゴ	灰色かび病	少	調査ほ場では発病は認められない。今後は気温が発病適温を下回るため、急激な増加はないと予測される。	少	<ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病 枯死した花卉や果梗部、発病部位は見つけしだい除去し、被害の発生を防ぐ。 ・ハダニ類 古葉や果柄などを除去し、葉液が葉裏まで十分かかるよう丁寧に散布する。同一系統薬剤の連用は避ける。
	うどんこ病	少	調査ほ場では発病は認められない。今後は気温が発病適温を下回るため、急激な増加はないと予測される。	少	
	ハダニ類	並	一部の調査ほ場で局所的な発生が認められる。ほ場をよく観察し、発生量の増加に注意する。	やや少	
	コナジラミ類	多	一部の調査ほ場で発生が認められた。今後、気温は低くなる見込みだが、日照時間の増加に伴い施設内温度が上昇する場合もあるため、引き続き発生に注意が必要である。	多	
トマト	灰色かび病	少	調査ほ場での発病は認められない。今後、気温は低く、降水量は少ないと予想されるため、急激な増加はないと予測される。	少	<ul style="list-style-type: none"> ・コナジラミ類 厳寒期でもほ場内では低密度で生息しているため防除を徹底する。
	コナジラミ類	多	調査ほ場の発生量は平年より多い。今後急激な増加は見込まれないが、気温上昇に伴い増加する傾向にあるため、引き続き警戒が必要。	多	
キュウリ	褐斑病	少	調査ほ場での発病は認められない。耐病性品種を栽培している場合、急激な増加はないと予測される。	少	<ul style="list-style-type: none"> ・べと病・褐斑病 過湿時には発病が助長されるため、送風機などを利用し、通風を良くする。 ・アザミウマ類(ミナミキイロ) 厳寒期でも低密度で生息しているため、防除を徹底する。
	うどんこ病	やや多	一部調査ほ場で発病が認められる。耐病性品種を栽培している場合、急激な増加はないと予測される。	多	
	べと病	少	調査ほ場での発病は認められない。耐病性品種を栽培している場合、急激な増加はないと予測される。	少	
	アザミウマ類	やや少	調査ほ場での発生は認められないが、今後、気温の上昇とともに発生が増加すると予測される。	少	
	コナジラミ類	やや少	調査ほ場での発生は認められないが、今後、気温の上昇とともに発生が増加すると予測される。	少	

注1) 美濃地域は岐阜、西濃、中濃および東濃地域

注2) 調査品種 イチゴ:濃姫、美濃娘及び紅ほっぺ、トマト:かれん、りんか キュウリ:ニーナ

注3) キュウリについては中濃地域が定植前のため、岐阜・西濃地域の調査結果のみに基づく予測

野菜類 灰色かび病

本病はトマトやイチゴ等の果実、茎葉、葉柄、花卉、ガクなどで発生します。果実に発生すると褐変または軟化・腐敗します。

この時期は、保温のために施設を閉め切るため、湿度が高くなります。また、気温が高く推移すると、暖房機の稼働時間が短くなるため、トマトやイチゴの濡れた状態が長くなります。ハウス内が20℃前後で曇雨天が続くと感染好適条件となり、多発生が懸念されます。

本病の発生を確認した場合は、二次感染の防止のために、すみやかに発病部位の除去と薬剤散布を実施してください。

数値データ (1月調査)

		岐阜・西濃	中濃
イチゴ			
うどんこ病	(発病株率 %)	0 (0.0)	0 (0.0)
灰色かび病	(発病果率 %)	0 (0.1)	0 (0.0)
ハダニ類	(発生株率 %)	16.7 (20.1)	6.0 (23.2)
コナジラミ類	(寄生株率 %)	2.0 (0.8)	0 (0.2)
トマト			
灰色かび病	(発病果率 %)	0 (0.0)	—
灰色かび病	(発病株率 %)	0 (0.4)	—
コナジラミ類	(誘殺頭数)	37.5 (6.2)	—
キュウリ			
褐斑病	(発病葉率 %)	0 (0.0)	—
うどんこ病	(発病葉率 %)	0.7 (0.1)	—
べと病	(発病葉率 %)	0 (0.0)	—
アザミウマ類	(寄生頭数/100葉)	0 (0.0)	—
コナジラミ類	(寄生頭数/葉)	0 (0.0)	—

注1) イチゴは岐阜・西濃3ほ場、中濃1ほ場、トマトは3ほ場、キュウリは2ほ場

注2) ()内は平年値

注3) コナジラミ類は施設内に設置した黄色粘着板での調査。1月第1半旬~第4半旬の累積誘殺数

＝施設栽培の病害虫について＝

施設栽培では、作型や栽培環境などにより施設ごとに病害虫の発生状況が異なります。施設内及び周囲の状況をよく観察し、病害虫の発生状況に応じた防除を実施してください。

＝東海地方1か月予報＝

(名古屋地方気象台 1月22日発表)

向こう1か月の気温は平年より低く、降水量は少ない、日照時間は多いと予想されます。平年に比べ晴れの日が多いですが、山間部では、平年に比べ曇りや雪の日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他にも病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/24321/>

〒501-1152 岐阜市又丸 729-1 TEL (058) 239-3161 FAX (058) 234-0767



岐阜県病害虫防除所
トップページ
二次元バーコード